

2024年 宗会（臨時会）宗務総長挨拶（要旨）

2024年12月11日

本日、議員の皆様方にはご繁忙の中にもかかわらずご参集を賜り、誠にご苦労様でございます。平素は、法義相続・本廟護持、そして、同朋会運動の推進に多大なご尽力を賜っておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

まずもって、本年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」並びにその被災地に重ねて発生した「令和6年9月能登半島豪雨」により被災されましたすべての方々に、衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を念じ申し上げます。本年の宗会（常会）における演説において、「本願念仏のみ教えに出遇うことのできた身としての仏教的・大乘的支援」ということを申し上げました。宗派にとって史上最大級の被災であるとの認識のもと、念仏の声が再び能登の地において響き渡るよう、引き続き内局・宗務役員一同、息の長い支援に、最大限の力を尽くしてまいり所存であります。

さて、このたびの臨時会は、決算審査の充実と早期の決算承認を目的として、2023年度の決算を審査いただくため、招集をさせていただきました。

この経緯につきましては、皆様も十分にご承知のことと存じますが、長年にわたり宗議会・参議会両会にて議論が行われ、去る宗会（常会）においても両議会から「宗会における決算審査及び決算承認の早期化を求める建議」が提出され、それぞれ全会一致にて議決されました。実効性と即応性を重視した決算審査の充実は、宗門の重要課題であります行財政改革の取り組みとも連動するものであると受け止めており、内局といたしましても、両議会からのご要望を真摯に受け止めさせていただき、このたび、決算審査のための臨時会の招集に至ったものであります。

なお、本議会の運営につきましては、現行法規に基づきつつ、議会の運営上の変更をもって可能な範囲での審査をいただくことでありますが、本臨時会を経て、引き続き、議会と内局が相互に協力しつつ、さらなる検討を行い、よりよい運営形態を形作ってまいりたいと存じます。

2023年度の決算概況については、財務長からの議案説明に委ねますが、2023年度を振り返ってみますと、真宗本廟における「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」が完遂された翌年度ということで、今こそ宗祖のご教示に基づき「足もとを明らかにする」ことを「要の課題」として受け止めさせていただいたことは演説でも申し上げたとおりであります。そのような中、北陸・能登地方を巨大地震が襲いました。「慶讃法要」と「能登半島地震」という重大な出来事を経験した私たちが成すべきことは何か。真宗本廟での慶讃法要は完遂されましたが、教区の慶讃法要はいよいよこれからであります。まだ終わっておりません。そして、能登半島地震で被災された寺院・ご門徒の復興もまだ途上であります。

内局といたしましては、教区の慶讃法要、そして能登半島地震への支援ということを最重要事項として、同朋社会の実現に向けた僧伽回復の取り組みを進めていかなければならないと、ここ

にあらためて決意を表明させていただきます。

引き続き、皆様方のご理解とご尽力を得て、宗門一丸となって進めてまいりたく存じます。

議員各位におかれましては、本臨時会にて提案いたしました全案件につきまして、何卒、全会一致をもってご可決たまわりますようお願い申し上げます。

以 上